



おちかこうみんかんだより

第140号 平成30年6月4日発行

平成30年度熟年大学開講



5月12日(土)、総合センター市民ホールにおいて熟年大学の開講式、及び第1回講座を開催しました。今年度の登録者数は、5月時点でなんと59名。昨年度から10名以上増えており、熟年大学への期待の大きさを感えています。

第1回講座では、福岡から来町された元教師のマジシャン「ミスターアセガ」こと阿世賀寛行氏によるマジックショーが行われました。

バックミュージックに乗せ華麗なるマジックショーが披露された後、実演を踏まえながら参加者へのマジックの講習が行われました。紙から100円が出るマジックやトランプが折りたたまれるうちに裏表が反対になるマジックなど、教わったマジックが成功するたびに参加者からは喜びの声が上がり、大盛況のうちに第1回講座を締めくくることができました。

今年度も熟年大学をよろしくお願いいたします！



第42回子どもの日大会開催！

5月13日(日)、総合センター市民ホールにおいて「第42回子どもの日大会」が開催され、会場には128名の子供たちが集まりました。

プログラム前半は「ちかはな吹奏楽団」によるスペシャルライブや「劇団とんと」による児童劇「三匹のかわいいオオカミ」、さらに今年は上記の熟年大学にも出演された「ミスターアセガ」によるマジックショーが行われ、会場は大いに賑わいました。後半は小値賀の「O×クイズ」や怪人との「ジャンケン勝負」、毎年恒例の「宝探し」と「抽選会」など楽しいゲームが続き、子ども達の興奮さめやめぬ中、大会は終了しました。



養寿園前の壁画修復終了！

5月20日(日)、今年度最初のおちか山学校「野外アート教室」～養寿園前の壁画修復～を行いました。

昨年度から修復にとりかかり、今回の取り組みで12枚すべての壁画の修復が終わりました。養寿園入所者の方のもとより、前を通られる方々に元気と安らぎを届けることと思います。なお、当日の様子が5/24付の長崎新聞に掲載されました！参加者のみなさんありがとうございました。



～図書館からのご案内～

展示中！

今年度最初の「おはなし会」を開催しました！

5月26日(土)、小雨の降る中、こども園の園児たち(1歳児～5歳児)など48名の方が参加してくださいました。

今回のプログラムでは、5月2日に92歳で亡くなった絵本作家【かこ さとし】さんの作品から、代表作の一つである「だるまちゃん」と「てんぐちゃん」の大型絵本の読み聞かせを行いました。

1967年に発売されて以来、子どもたちに愛読されているロングセラー絵本の「だるまちゃんシリーズ」。3歳児以上の内容にも関わらず、1歳児の子どもたちも、身を乗り出しながら一心に聞き入っていました。長く愛される本の持つ力を、改めて感じさせられました。プログラム最後のエプロンシアター「おむすびころりん」では、尾野さんの巧みな話術と演技に、子どもたちも大笑い！《絵本の世界を楽しむ》時間を過ごすことができましたようです。

【職場体験学習がありました】

5月15～17日の3日間、値中2年生 大久保綾美さんが、図書館にて体験学習を行いました。

綾美さんのおススメ本を、手作りPOPと一緒に展示しています！又、職場体験の感想をまとめた『みんな知らない図書館の仕事』も館内に展示しています。ぜひご覧ください。

「かこさとし」作品も追悼展示中です！！



職員紹介！



今年の4月より新しく入りました“近藤 有紀”です。

私は、本を読むのは好きでしたが、あまり図書館に行くことがありませんでしたので、図書館の事を一から教えてもらい、図書館の大変さを思い知りました。

本当でしたら、「ここで一つオススメの本を♪」と言いたい所ですが、まだまだ未熟者なので、オススメするほど本を把握しきれていません…。なので、もし宜しければ、「買う前に1回読んでみたい」「興味のある本」「調べてみたい事」があれば、ぜひ一度図書館へ来てみてください。



遊遊句抄

5月【兼題】新緑 鯉幟(こいのぼり) 鉄線花(てっせんか)

新緑の熊本城に鯉戻る 妖怪の女ほど白しクレマチス 増円	新緑や人生生き生きと島の磯 親こころ笑顔かくせぬ鯉のぼり 利石	番岳の新緑空を押し上げる 渡来より世紀をこへて鉄線花 一穂	新緑に染まるや鳥の眼と脚に 競心世に背を向け生きて鉄線花 月歩	端正な庭に女をり鉄線花 鯉のぼり見せたき爺の竹選び 値賀助	新緑やペダル漕ぎくる君がいて 海風を孕み胎むはこいのぼり 虫砂男	新緑のあれよあれよともう大樹 鯉跳ねる湾よ上がる鯉のぼりよ 紫紅	新緑や一家の揃ふ卒寿膳 友の庭想ひ出深き鉄線花 香松	新緑や果てなく巡る野崎島 隠れ民潜むに似たり鉄線花 松月
-----------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	---------------------------------------	-------------------------------------	--	--	----------------------------------	------------------------------------

子どもサークル訪問記

西記者が少年野球チームを訪ねました。



○練習でも真剣です！

○ヒットなるか！？

○未来のエースたち

○目指せ県大会！

4月28日（土）、午後の総合グラウンドを訪ねてみると・・・そこには練習に懸命に取り組んでいる「小値賀パワフルズ」の子どもたちの姿がありました。

子ども達に集ってもらい、早速インタビュー。

最初に入団理由について聞いてみました。ほとんどの子ども達が

「家族や知人が入団していた。」

と答えてくれました。ここでも小値賀町の家族の繋がりを垣間見ることができました。また、中には

「小値賀に転校してきたときに誘われたから。」

と答えてくれた子もいました。

続いて野球をしてよかったこと、つらかったことについて聞いてみました。よかったことについては

「試合に勝てた。」「友達と仲良くなれた。」「ボールを遠くに飛ばせた。」「ごはんがおいしくな

った。」

などたくさんのお返事が返ってきました。つらかったことについてはなかなかお返事が返ってきませんでしたが、しばらくしてようやく

「ストライクが取れない。」「ヒットが打てない・・・」

など自分が思うようなプレーができなかったことや

「冬の練習の階段登りがきつい。」

など練習に関するお返事が返ってきました。

つらいことよりもよかったことの方がたくさん出てくるとは頼もしい限りです。

最後に今年度の目標について聞いてみると口をそろえて「ライバルチームに勝ち、県大会に行きたい！」

と力強く答えてくれました！また他にも

「試合でヒットを打ちたい！」「練習を頑張りたい！」

など個人の目標について答えてくれる子もいました。

「最後に、監督、コーチにお願いはありますか？」

と尋ねると、「・・・・・・(ニコニコ笑顔)」

こっそりどうぞと促しましたが誰も要望はなさそうでした。

写真撮影とインタビューが終了すると、子ども達は再び激しい練習に戻っていきました。

練習の忙しい中、インタビューに答えていただき本当にありがとうございました。今後も小値賀パワフルズの活躍に期待しています！

※パワフルズでは、部員募集中です。

ヤマカンの四方山話(よもやまばなし⑮)

田植え

4月の1週目の日曜日、田んぼに水を入れてトラクターで耕耘作業をしていました。昔でいう、代掻き作業でしょうか。ふと遠くに目をやると、自家苗のお宅が早くも田植えをしているようです。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、そして子どもたち。一家総出で作業している様子が、とても懐かしく素敵でした。

見とれているうちに、半世紀前の子どもの頃の田植えを思い出しました。

春先水ゆるむ頃、田んぼの中に苗代をつくります。裸足で入るとまだまだ水は冷たく、撫で板を持つ手がかじかむこともありました。きれいに撫で上げた苗床に3日3晩風呂場につるしたモミ種を撒き、庭先で作ったクンタンを上からかけ、油紙で覆います。子ども心に、緊張した中に高度な技を必要とする作業だったように覚えています。

田植えは、5月の連休の頃。子どもも重要な働き手だったので、連休は絶好の作業日でした。部落の婦人会からいただいた「子どもの日のお菓子」を大事大事に食べながら、親戚総出でやっていた田植えの淡い思い出・・・。

幼稚園や低学年の頃は、苗取りばあさんたちがとった苗を運ぶ役。少し慣れてくると田んぼに入り、大人たちの間に加わり見よう見まねで田植えをする。大人たちの手早いしぐさに見とれたり、従兄弟と競争したり、泥を投げ合ったり、楽しい田植えでした。

高学年になるにつれて苗を持つ左手の使い方を覚え(左手の指の動きが大事!)、大人に負けないほどの植え手に成長します。中学生になると、もう1人前。両端で田植え縄を張る仕事を任せられます。例の目印となる珠が等間隔でついている縄です。最初は、竹尺で間隔をとって縄を移動させるだけ。トップの仕事は、縄をピンと張りまっすぐ平行に決めて置く責任者。この役割を担った時には、自分も1人前になったという自覚が生まれ、ちょっぴりうれしかった思い出があります。

そういえば、昔は働くこと(労働)を通して、自分自身の成長や発達を実感することができたように思います。できるようになった作業の技のレベルや任せられる役割の重要さで、自分が大人に近づいていることを自覚できるのです。さらに「頼りになる。」とか「1人前になった。」とか周りから言葉をもらったりして、自己有用感や自己肯定感を知らず知らずのうちに育ててきたのだと思います。いい時代でした。

そんなことを考えながら遠くに目をやると、先の家族のみなさんが、田植えが終わってみんなで片づけをしていました。子どもたちが苗の箱を運んでいます。いい光景です。

それにしても、機械化された現代の田植えはなんと早いことでしょうか。手植えでは1日で終わりそうにない広い田んぼもあっという間でした。

あれから2ヵ月。どこの田んぼも、青々と稲が大きく成長しています。そろそろ中干しの時期でしょうか。今年も豊作を祈ります。

※写真は、すつてくろ農園での田植えの様子です。収穫が楽しみです。



